

## 平成25年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

### 1対1対談(御浜町)会議録

1. **開催日時** : 平成25年7月22日(月)13時00分～14時00分
2. **開催場所** : 御浜町中央公民館 3階 ロビー  
(御浜町阿田和4926-1)
3. **対談町長名** : 御浜町(御浜町長 古川 弘典)
4. **対談項目** :
  - 1 南海トラフを震源域とする最大クラスの地震・津波を想定した東紀州地域における各市町の被害想定について
  - 2 地域自主防災組織の育成・強化にかかる取組への人的支援(専門職等)の継続について
  - 3 津波シミュレーション(CG映像)の作成について
  - 4 防災無線設備の更新等における財政的支援について
  - 5 海岸及び河川堤防の強化と津波被害の減災について
  - 6 柑橘産業の振興について

## 5. 会議録

### (1) 開会あいさつ

#### 知事

本日は、お時間いただきまして、どうもありがとうございます。いつもお世話になってありがとうございます。

1対1対談ですが、主には来年度、26年度の予算編成する前に、町長のご意見をお伺いして反映していけるようにとということで始めたわけですが、とはいえ喫緊のすぐに対応できるものはしっかり対応すべきだろうし、一方で中長期的な課題についても一歩でも半歩でも前に進めていけるようにということも大事だと思いますので、そういう意味では、限られた時間ではありますが、こういう場でぜひ有意義な時間になりたいと思っております。

今日は、眺めのいい場所で開催をしていただいて、町長にはいつも趣向を凝らした場で設定いただいて、大変感謝しております。

今日は限られた時間ですが、本当に御浜の町民の皆さんにも喜んでいただける時間になるように頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

#### 御浜町長

まずは、この1対1対談を津の県庁で開催するというのではなくて、地

元に直接足を運んでくださるという意味に我々も大いにうなずく、あるいは感じるところがありまして、そのことにまず感謝申し上げます。

趣向を凝らした場所というふうに言っていただきましたが、去年は御浜町にごぞいます三重県の果樹研究室で開催させていただきました。それは、御浜の経済の主体であります柑橘の大事な大事な基地、そういう場所でやっていただく、それと、樹園地も畑も見えていただきました。それも、私が拙い話を知事に申し上げるよりも、百聞は一見にしかずと申しますか、そういう意味も大いにあろうかということでございます。

今年は、大きく分けて2つのテーマでお話をさせていただきたい。1つは防災です。もう1つは、昨年同様柑橘の振興ですが、防災を話題にするには、この七里御浜を見ながらするのが適当ではないかということで、この場所を設定いたしました。

この七里御浜は、私の物心ついたときからこの浜で遊んで育った人間ですが、この太平洋の七里御浜の豊かな富と、いったん牙をむいたときの恐ろしい災害、自然の恵みと恐ろしさは背中合わせだと思いますが、そういう場所でもあります。そういう意味で、知事にもこの浜を見ながら、また、先ほどのお話をさせていただければと思っています。

よろしく願いいたします。

## (2) 対 談

### 1 南海トラフを震源域とする最大クラスの地震・津波を想定した東紀州地域における各市町の被害想定について

御浜町長

対談項目が6つございますが、1から5までが防災に関わる部分です。よろしく願いいたします。

御浜町におきましては、昨年度から防災面での強化の観点から、防災課を独立した課として設置しました。「逃げる」「備える」をキーワードとして、防災対策を町行政における緊急かつ最重要施策と位置づけ、「緊急地震・津波対策行動計画」を策定し、本行動計画に基づいて取組を行っているところです。

南海トラフを震源とする巨大地震につきましては、国において一定の津波高・浸水域等、被害想定が示されています。

しかしながら、その内容につきましては県単位での被害想定が主でありまして、各市町単位の具体的な浸水域等、被害想定が示されていないために、県におかれましては、三重県独自の被害想定、各市町単位での想定を早急に示していただきますように要望いたします。

## 知 事

御浜町さんにおかれましては、本当に町長がリーダーシップを取っていただいて、防災対策を一所懸命やっただいておりますことに敬意を表したいと思います。

今おっしゃっていただいた被害想定の関係ですが、国が南海トラフに関するものを8月に出してきました。あれは、一応今の論理的、科学的に最新の知見で出せる千年級万年級の論理的に出せばこれが最大だという被害想定です。それを受けて、国ではその対策については、これはこれとしつつも、やはり100年150年単位で実際に起こった「レベル1」の地震・津波への対策を取っていくべしという、国の報告書でも南海トラフワーキングで示されました。

したがって、我々としては、今、2種類の被害想定調査を作っています。1つは、100年150年の周期で実際に南海トラフ沿いに発生してきた地震・津波に対する被害想定。それから、もう1つは、今申し上げた国が発表した千年級万年級のものに対する被害想定調査、この2種類を現在やらせていただいております。

そして、今、町長からおっしゃっていただいたように、実際に住民の皆さんが避難したり、あるいは、町で防災対策を立てたりということでは、やはりそれなりの単位のきめ細かなデータというのが必要であると思っていますので、我々としては、今作っている被害想定調査をもとに津波浸水図を作りますけども、10メートルメッシュの大きさ、23年10月に行ったときには25メートルメッシュだったと思いますが、10メートルメッシュで「より細かく」ということであります。

それから、その被害の実際の数量は、基本的に大字の単位で提供させていただきたいと考えています。この内容は、今町長からもおっしゃっていただいたりご要望いただいているような建物被害や人的被害、津波浸水域はもちろんのこと、避難者数、廃棄物の発生量、そういう今後の対策に必要なデータを可能な限り推計して提供させていただければと思っています。

それで、スケジュール感ですが、23年はとにかく避難ということに意識が高いので、まず、県がマグニチュード8.7を9に変えたことで浸水予測したものを出させていただきました。今回は国の震源モデルに合わせて作ろうと当初で決めていましたが、国のほうで震源モデルの提示が遅れていましたので、県の作業も少し遅れています。今申し上げたデータの提供は、大体年度末ぐらいになってしまうのじゃないかと思いますが、いずれにしても、それを出させていただきたいと思っています。

また、河川の遡上も重要かと思いますが、河川の遡上による津波浸水域に

については、御浜町関係では、志原川、市木川、尾呂志川の3つの本流については、河川遡上による浸水予測ができるの見込んでいますが、支流やそれ以外の河川は、最終的な判断は一定の試算を終えてから判断させていただければと思っています。

今、そのような現状です。本来であれば、もう少し早く出せればと思っていますんですが、国の震源モデルの提示が遅れたということもあって、遅くなって大変申し訳ありませんが、年度末までに今申し上げたような形でデータ提供をさせていただければと思います。

### 御浜町長

それらが出れば、それらをもとに町としても防災マップ等への活用であるか、また、その被害状況が一定示されれば、その数値をもとに備蓄計画の見直し、また、避難者の状況によりまして現避難所の収容人数等の見直しや、被害想定に基づいた防災対策面での現数値の見直しや今後の対応をしていくうえでの検討資料としていきたいと思っていますので、なるべく早くよろしくお願いいたします。

それと、先ほど知事が言われましたが、「レベル1」と「レベル2」の差といますか、それについては、国民的あるいは県民的あるいは町民的レベルでの認識を共通認識として持っていく必要があるのではないかと強く感じています。それは、我々が対策していくのに千年万年級のものがレベル2で想定されているわけで、常にレベル1の話をしていても、レベル2の話が当然割り込んでくると。しかし、我々は現実的に今何をしなければならないかというふうな観点からは、他の項目のところでも少し話題にさせていただきたいと思っていますが、どれぐらいの津波が来るのかということについて、現実にレベル1とレベル2では相当違うわけですから、そのところを防災文化といってもいいようなレベルでの共通認識を持って、落ち着いて緊急かつ冷静に時間をかけて対応していくためにも、また、知事のほうからもご指導等も改めて強くいただければと感じております。

## 2 地域自主防災組織の育成・強化にかかる取組への人的支援(専門職等)の継続について

### 御浜町長

これまで、御浜町では、地域自主防災組織の育成・強化にかかる取組を積極的に行っています。それに対する県からのご支援もいただいているところであります。これまでの様々な防災対策面での相談や本町職員の防災意識向上を目的とした防災研修にも支援員、防災企画や地域支援のそういう専門家

を派遣していただくなど、これまでも多面にわたって協力をいただいております。感謝をしております。

今後も、職員への防災研修や地域自主防災組織の育成・強化の面で、各自主防災組織単位での訓練等に際しまして、タウンウォッチング等、現地指導も含めて、積極的に入ってきていただくようなご指導をいただきたいと思っております。引き続きのご支援をお願いしたいと思っております。

## 知 事

今おっしゃっていただきましたように、県では、各地域、市町でいろいろ取り組んでいただく取組を支援するために防災技術指導員を5名配置しています。

御浜町さんでは、今、町長からもおっしゃっていただいたように、町職員による図上訓練や職員向けの防災講話に積極的に派遣の要請をしていただいております。特にこの3年目となる図上訓練では、町長のリーダーシップで職員を地区別に配置するなど、体制の強化を進めていただいていると聞いていますので、今後もぜひ防災技術指導員などご活用いただければと思います。

自主防災組織への支援については、今、局長がいますが、紀南地域活性化局と連携して、自主防災組織リーダー研修を管内で開催させていただこうと思っています。その中で、図上訓練あるいは避難所運営ゲームなどを通じてそのリーダーの育成を行っていきたいと思っています。

それから、その関連ではありますが、今年度はこれまでの取組に加え、御浜町では、阿田和地区内だと思っておりますが、「Myまっぷラン」を活用しました津波避難計画の策定、あるいは、避難所単位の避難所運営マニュアルの策定、こういうものを進めていただくこととなります。ぜひ、引き続き協力して取り組んでいただければと思います。

「Myまっぷラン」は、昨年度、熊野と伊勢で実験的にモデル的にやらせていただきましたが、一人ひとりが避難計画をちゃんと持って、それを集約して地域全体のものとして、それをみんなで話し合っ共有していこうというモデルで考えています。今年度は阿田和地区でということなので、また、我々も熊野や伊勢での経験を踏まえて、もうちょっとここを改良したい、こういうふうにしたらいだろうなと思う部分もありますので、そういうのも投入させていただきながら、より良いものになっていくように、また、それをやっていく過程で、町の職員の皆さん共々一緒に学んでいただけるような形にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いしたいと思います。

## 御浜町長

我々といたしましても、県からのそういう直接の指導員を派遣していただくことに加えて、紀南地域の活性化局長からも折々にしっかりと声をかけてくれと、情報交換しようと言っていていただいております。ふだんの防災課で町として取り組んでおりますいろんな課題に積極的に加わっていただくような場面も作りながら、県との情報交換・共有を密にしていきたいと思っておりますので、その点、よろしく願いいたします。

### 3 津波シュミレーション(CG映像)の作成について

#### 御浜町長

これは、今日、七里御浜のこの場所に設定したと大きく関わっております、ぜひともお願いをしたい項目です。

国が示した本町における最高津波高は 16 メートルです。平均津波高が 13 メートル。こういうことに対応していく場合に、海岸部に住む地域住民への津波避難対策の一つの手段として、高台に逃げることをイメージさせることが非常に重要であると考えます。自分の住む町が津波によってどんな状況になるかを講和や勉強会等で伝えるだけではなくて、映像として観てもらうのが大変効果があると実感しております。

国が新たに示した南海トラフを震源とする最大クラスの地震・津波等を考慮に入れた、当地域、東紀州地域の「津波シュミレーション映像」をぜひとも作成していただきますように要望をしたいということで、この項目を作らせていただきました。

我々の経験としましても、先ほど来のレベル1、レベル2で考えましても、300年前の宝永の津波も、例えば尾鷲あたりで8メートルから10メートルだったということですし、160年前の安政の津波も6メートルから8メートルぐらい。そして、私が生まれる直前の東南海地震、70年前、これも5メートルから8メートルぐらいの、いわゆるレベル1の津波であったということです。

しかし、新たに国で示されている16メートルもあり得るということについて我々がイメージを持続するうえでも、そういう津波シュミレーションの映像を県においてぜひ作っていただけないかと。強い強いお願いでございます。

#### 知 事

強い強いという感じで言えないかもしれませんが、町長がおっしゃっていただいているように、どういうふうに変化していくかとかイメージをしっかり持つということは大切だと思います。我々も今、津波浸水予測図を新しく被害想定調査をやっている中で作っていくわけですが、それは、なるべく分

かりやすくイメージしてもらったり危機感を感じていただけるようなものにしていきたいと考えていますので、基本的には時系列で、例えば1時間後はこう、3時間後はこう、5時間後はこうというような予測図をこういうイメージで示させていただこうかなと思っています。

CG映像は今、県のほうでも4種類ぐらい持っていますが、これがあまりリアリティがない割には結構費用がかかりますので、1箇所、500万円ぐらいするんです。やるならちゃんとしたものにしないといけないし、今、町長がおっしゃっていただいたような、みんながイメージや危機感を持てるようなものでないといけないと思うし、もう一回、CGをとというのはやや難しいのかなと思っていますが、それをカバーするために、今申し上げたような津波浸水予測図を時系列で何枚か示すことで、イメージを持っていただくというような形にしようかと考えているところです。強い強いとおっしゃっていただいたんですが、あまり色よい返事じゃなくて申し訳ないですが、おっしゃっているその趣旨は、十分我々も理解しておりますので、そんなふうになんて考えているところなんです。

## 御浜町長

お金をうんとかけないとリアリティのあるものにならないということもあるろうかと思いますが、イメージをどのようにして持続するかということ例えば、30年以内に南海トラフを震源域とする巨大地震がある可能性が8割を超えているという中で、言ってみれば来ないことを望むわけですが、30年間有効に教育とか啓蒙に使えるものでもありますし、30年で割って1年あたりどれぐらいかというふうな理屈もつけていただいて。

と申しますのは、災害については、明日来るかも知れない、30年後かも知れないという言い方がまず前提になります。その幅というのは、日々の恐怖の中で毎日毎日24時間生活しているわけにはいかないし、かといって、のど元過ぎれば何とかというのも適当ではないという中で、定期的にそれを見て、それを意識に呼び戻して、それこそ刷り込みとは言いませんが、地域文化と言われる備えになるような、大いに役に立つ手段だと思っています。

マップも、例えば、マップを信用するな、しかし必要だと、そういう難しい言い方があるわけですね。そのあたりのことについても国も県も市町も、そういう信用するな、しかし気にはせいというふうなことも、考え方としてはこうなんだということを小学校教育風にしっかりと示して、言葉の意味を学習するようなことのリードをぜひ知事にも取っていただいて、その意味はこうなんだということを絶えず学習するようなことも指導していただけたらと思っていますので。それと、CGの同じような意味合いでございます。

## 知 事

今町長おっしゃっていただいたように、子どもたちあるいは自主防災組織の人たちもそうかも知れませんが、予測図の意味みたいなもの、そういうのはやっぱりよく理解してもらえるような工夫というか伝え方というのはしっかりしていかなければと思っていますので、我々も、その防災教育の中でどういうふうに取り組むか、しっかり検討させていただきたいと思います。

CGは30年間使える、なるほどなと思いつつも少し考えますが、一方で、東日本大震災のあの衝撃的な映像を目の当たりにしましたので、それもうまく活用し、そして、さっきの時系列の浸水域シュミレーションを合わせて、もちろんそれで大切なのは、その意味を伝えることだと思いますので、そういうものも組み合わせながらというのもしっかり選択肢としては考えながらと思っていますので、いずれにしても、危機感を現実的にどのように持ち、示されているシュミレーションや数字がどういう意味なのかということを通認識として持ってもらう、理解してもらう取組をしっかりと我々も研究していきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

## 4 防災無線設備の更新等における財政的支援について

### 御浜町長

防災無線は、わざわざ言うまでもないことですが、防災面での情報を住民に伝達する最大の手段であり、設備の更新が重要不可欠なものになっています。御浜町の防災無線は、平成8年に「防災・行政無線システム」として屋外設備のスピーカーを一定の箇所に30基、それと、町内4,300ほどの全世界帯に戸別受信機を配備しております。

しかしながら、現在使用の設備は、設置から17年が経過しておりまして老朽化が進んだことから、戸別受信機においてはここ数年、故障が多くなってきています。

また、現在使用している設備はアナログ式のもので、メーカーからは、現設備の製造は中止の方向にあると聞いております。そのため、本町として、現設備の切り替え等の判断が必要な時期にきていると思っています。

したがいまして、本年度から調査等検討に入ることとしておりまして、翌年度、平成26年度から2箇年計画でデジタル化等設備の更新を図っていきたいと考えております。

しかしながら、本町としましても、財政的に非常に厳しい状況であるため、県も厳しいのは重々承知のうえで、県の財政面でのいろんな支援制度の創設等をお願いしたいと思っています。



## 知 事

防災行政無線の設備については、地震・津波のみならず、一昨年、紀伊半島大水害においても、その情報伝達というのがいかに重要かということは、我々も身をもって体験しているところですので、その重要性は十分理解しているところです。

現在、県の地域減災力強化推進補助金、半分半分出すものにおいても、防災行政無線戸別受信機等の整備も対象メニューになっております。御浜町さんのほうでは、25年度は、津波避難ビルの改修や衛星携帯電話、家具転倒防止、耐震シェルターのあたりで地域減災力強化推進補助金をご活用いただいていると聞いていますので、先ほど町長おっしゃっていただいたように、今年度に調査検討していただいて、来年度からということであれば、この地域減災力強化推進補助金のご活用もご相談いただければと思っております。

それから、一方で、国の緊急防災・減災事業債、その事業費の100%を起債でき、そのうち70%が交付税で算入されるというのがあるんですが、デジタル方式の防災行政無線を町単独で整備する場合は、それが使えることになっています。しかしながら、これは非常に使い勝手のいい起債としてやれるものですが、今年度で終わりというか、その財源が確保されていませんので、今、我々三重県を含む、特に南海トラフ沿岸の9県の知事で力を合わせていろんな提言をしているわけですが、その9県の知事で要望している中でも、この緊急防災・減災事業費を存続か、同等の支援措置、又はそれを拡充をしてほしいと強く国に対しても要望しているところでもあります。そういうのを踏まえて国がどう判断するかということはあるんですが、国がそれで同等の財政支援措置を継続するということになれば、そちらもご活用いただき、また、県の地域減災補助金も使っていただいたりという2つの財源措置があるのかなと思います。もし、仮に国が同等の支援措置を講じないということであれば、県の地域減災力補助金のほうをご活用いただくということで、県が半分それを出しますので、やっていただくということかと思っております。

さっき言った9県知事だけじゃなくて、7月の8、9日に愛媛で全国知事会がありました。そこでまとめた地震津波対策緊急決議というものの中にも、今申し上げた「緊急防災・減災事業債と同等の支援措置の継続と拡充」ということを申し上げていますので、全国知事会全体でもやっていきたいと思っておりますし、また、その全国知事会のほうから市長会や町村長会にも連携をお願いして、地方団体全体で国に対して26年度予算に向かって言っていくということが大切かなと思っております。

いずれにしても、県のほうは地域減災力強化推進補助金を、次年度も地域の皆さんのお声を聞いて少しずつ進化させながらやっていこうと思っております。

ますので、その点は個別にご相談いただければと思います。

#### 御浜町長

本町におきましては、その防災行政無線システムは全戸に設備していただき、町になくってはならない、あるのが当たり前という、そこまで利用されていると考えています。

(紀南地域) 活性化局長さんもすごい得意ですけど、デジタルの操作。そういう意味でデジタル機器の機能が急速に進歩しているやに聞くこともあります。その設備費用も、随分とえっというぐらいに値段の差があるようです。しかし、安いですが全戸に設備する機械としてはどうかということが言われていますので、機器の性能、使い勝手も含めて大幅に値段が変動しているようなものであれば、ぜひそういう面でも県で研究していただいて、また我々に教えていただきたいと思っていますので、よろしく願いをいたします。

### 5 海岸及び河川堤防の強化と津波被害の減災について

#### 御浜町長

これは、3.11 以前からずっと長い間、防潮設備、主に台風等被害に対する対策として、伊勢湾台風から 50 年にわたってずっと、国、県の支援をいただきながら御浜町もそういう対策を講じてきているわけですが、高潮対策だけでは済まないということが現在起きてきております。

それで、海岸浸食が進む七里御浜の無堤防区間の解消ですが、具体的には現在整備中の萩内海岸堤防の早期完成とその北側、熊野市側への延長の早期着工をお願いをし続けていきたいと思っています。

また、その海岸堤防に設置されている樋門を閉鎖したことから、七里御浜海岸から津波発生時の避難路として、ちょっと熊野よりの下市木浜組地区に 3 箇所ある梯子階段を避難階段にさせていただきたいと。これもやるという計画に載せていただけていますが、それらをできる限り早急にとっています。

また、先ほど知事に言っていただきましたが、町内にある県管理の主要 3 河川の河口付近の河川堤防の耐震化やかさ上げ等について、簡単ではないと承知しながらも、一番新宮よりの尾呂志川の河口付近の背後地、阿田和小学校や紀南高校やクリーンセンターが近くにあるわけですが、それらを保護するためにも河川堤防のかさ上げ等の対策を、難しいと言われているわけですが、改めて再考のお願いをしたいと思っています。

次に、3 河川の中の真ん中ですが、市木川下流の左岸堤防水漏れ調査を早急に実施をしていただいて、対策を講じていただきたい。

また、志原川は熊野市との境にもなっている川ですが、志原川の水系の河

川整備計画の策定を早急にさせていただきまして、樋門の老朽化等の対策もお願いをしたいということでございます。

**知 事** まず、萩内海岸ですが、2.1キロのうちの緊急度の高い640メートルのうち、現在460メートルの整備が完了していて、残りの180メートルについて、去年は林野庁との保安林解除の協議が必要で、それが終わり次第にというふわっとした感じだったと思いますが、今年度内に林野庁と保安林解除の協議を完了し、完了次第、工事着手の予定で考えています。

北側への延長については、他の事業区間の進捗状況も考慮しながら着手について検討したいと考えております。

下市木海岸の梯子階段3箇所については、今年度25年度に避難階段として整備させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、これは町長も難しいと言っていたいただきましたが、尾呂志川の堤防かさ上げについては、平成25年3月に災害復旧工事は完了していますが、今後の出水時の状況を見ながら必要な対策を町と協議していきたいと考えています。一応平成23年度に河川堤防の緊急点検をやりましたが、ご要望の箇所については損傷箇所が確認されていないということもあって、今申し上げたような出水時の状況を見ながら必要な対策を町と協議させていただきたいと考えております。

それから、市木川の左岸堤防の水漏れ調査ですが、平成24年度にその漏水の現地調査を行いまして、漏水を確認しましたが、背後地に人家がないので、緊急度の高い他の災害復旧工事を優先させていただいておりましたが、その漏水箇所については、今年度内に補修工法の設計を行いまして、補修を行いたいと考えております。

志原川水系の河川整備計画の関係ですが、今取り組んでいまして、国交省と協議を進めまして、25年度末の策定を目指していますので、志原川の樋門の改良につきましても、この河川整備計画の中で検討を進めていきたいと思ひています。

## **6 柑橘産業の振興について**

### **御浜町長**

最後の項目でございます。経済に関わるわけですが。知事もよく知っていただいておりますとおり、御浜町は、「年中みかんのとれるまち」をキャッチフレーズにしており、特産品の柑橘を中心とした農業の振興が重要な課題であり続けています。

現在、JAや関係市町、県と連携しての担い手対策や品種更新に取り組んでいます。中でも県の紀南果樹研究室が育成し、新たに品種登録された柑橘の「みえ紀南1号」は、この地域の特徴を生かした将来性の高い品種であり、一定の基準をクリアした「みえ紀南1号」につきましては、知事に命名していただきました「みえの一番星」というブランド名で、町としても増産支援に取り組んでいるところであります。

我々の産地は広域にまたがっておりまして、産地の一体化、統一感のある振興策を実施していくためには、生産者団体のJAさんの主体的な取組と県の協力・支援が不可欠です。特に紀南果樹研究室や紀州地域の農業改良普及センターは、産地の基礎を支える重要な役割を担っていただいております。

高速道路の南進によって、南三重、東紀州地域における産業振興の在り方についても新しい時代を迎えて、担い手の確保、高品質な果実生産に向けた取組につきましても、スピード感が求められております。地域の実情に応じた生産振興支援、六次産業化支援、首都圏営業本部等の活動を通じた県産品のより積極的なPR等、ご支援をよろしくお願いいたします。

六次産業化などいろんなテーマについて、希望を持てるようなこともないではないという状況の中で、本当に頑張っていきたいと思っておりますので、そういう振興についての続けてのご支援をお願いしたいと思っております。

## 知 事

柑橘産業の振興ですが、まず、担い手の確保・育成に向けた取組ということでは、平成24年度から県の農業大学校で農産物のマーケティング戦略に関する公開講座を開催しました。こういうマーケティングの授業を農業大学校で入れまして、先般も、柑橘ではないんですが、若者たちがトマトジュースを作りまして、「僕らのトマトジュース」という名前だったか、これはなかなかおいしかったですが、それを販売するというような実践例も出てきたりしていますので、御浜町の柑橘産地などで一定のまとまった受講者が見込まれるということでしたら、農業大学校まで来ていただかなくてもこの地域での開催を検討しますので、普及センターのほうにご用命いただきましたらと思います。

それから、24年度から、南部地域の活性化の関係で、御浜町さん、熊野市さん、紀宝町さん、JA南紀さんで、「三重南紀元気なみかんの里創生プロジェクト協議会」を作っていただいて、就業希望者向けの基盤整備や情報発信に基金を活用してやっていただきまして、我々も支援させていただいているところです。

去年は、情報発信や短期研修の受入れをやっていただいたり、定住促進に

向けた基盤整備として、「みえの一番星」の植樹やマルドリ栽培導入の関係というのをやっていただきました。今年度も引き続き、この支援を続けていきたいと思っております。

担い手確保の前提としての定住、前も御浜町で「すごいやんかトーク」をさせていただいたときも「こっちでミカン作りたから移住してきた」という、若者が確かいたように思いますが。そういうことをきっかけに、昨年度県が初めて東京で移住フェアをやったんですが、協議会は、積極的に参加をしていただきましたし、柑橘産業への就農PRをしていただいたところです。

今年度も移住相談会をやりますが、またそこに協議会もご参加いただくと聞いていますので、そこでも大いに共にPRできればと思っております。

それから、競争力の高い産地づくりのところでは、先ほどの「みえの一番星」、あるいは団地型のマルドリリップ栽培技術の導入、あるいは実証展示場の設置、こういったもので支援させていただきます。また、国の交付金を活用して高品質果実の選別や、腐敗した果実の除去が可能となる選果システムの導入もやらせていただいているところかと思えます。

PRの点につきましては、主に秋から10月以降になりますが、全国20箇所ぐらいの老舗百貨店で、「平成のおかげ参りプロジェクト」ということで、全国的に三重フェアを開催いたします。そういうところでPRさせていただいて販路拡大につなげていければと思っておりますし、この9月に日本橋にオープンする首都圏営業拠点「三重テラス」、ここは、市町の皆さんに使っていただいてもいいですし、市町の皆さんと一緒にやらせていただいてもいいですし、市町の皆さん同士が連携していただいてもいいですし、市町の皆さんがどこかの自営とか民間企業とかと連携していただいてもいいですし、そのためにそこを使うよということになれば、もちろん無料でお貸しをしてPRをしていただくというようなことをしたいと思っておりますので、ぜひ自由な発想で具体的なアイデアをいただければと思っております。例えば、その2階で、御浜町のミカンウィークをやって、ミカンのキャンペーンガールに来てもらってPRするとか、あるいは、柑橘類をテーマにしたセミナー、僕は、知事の選挙のときにミカンを食べたらべっぴんになるという話を聞いたりもしましたので、「この美肌の秘密はミカンから」とかそういうのを首都圏で三重テラスを使っていただいて、首都圏の美肌にこだわりのある女性たちにPRするセミナーをやっていただいたり。もちろん場所代はタダですので、集客等についても我々もお手伝いさせていただきますし。そういう形で活用いただいて、我々もサポートさせていただくというようなことが具体的にしていけるとおもしろいと思っておりますので、また、そういうのも具体的にご相談させていただければと思っております。

また、通販のカタログへの掲載の働きかけやNEXCOのオンラインモールにも働きかけをさせていただいていますので、もっと使ってもらいたいと思っています。

そういうことで、いろいろたくさん申し上げましたが、御浜において多くの方がこの柑橘に従事し、それが地域の主要産業であるというのは、十分我々も認識しておりますので、今申し上げたような形で、様々な場面で、産業振興はいずれも特効薬みたいなものはないわけですが、今申し上げたようないろんな取組を組み合わせ、シナジーさせていくことで効果を上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

### 御浜町長

三重テラスの活用については、三重テラスで行う議論とか、セミナーをそこでやったら三重テラス認定のセミナーとか、そういう議論ということでブランド化していただくという、議論とかセミナーそのもののブランド化が図れるような。そこでしっかりした議論をした場合、三重県が特にこのセミナー、この議論が一番おもしろい議論やということで認定証を出していただいて、営業に回れるとか、ブランド化の場所にぜひ。商品だけじゃなくて、そういう情報の交流の質が高いということにもぜひ、場所が場所だけにそういうこともあり得るかなと思っておりますし、我々もそういう議論とかセミナーに積極的に参加をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

### 知事

何といっても、そのビルは日本一のフルーツ屋さんである千疋屋さんのビルでありますし。今、町長おっしゃっていただいたように、セミナーそのもののブランド化というのは本当に重要だなと思っております。我々が今やっているのは、東京駅の丸ビルのところ「丸の内朝大学」というの、朝8回講義で3万9,000円払って、若者たちが三重県のことを勉強しに来るんです。定員40人ぐらいですが。それ以外にフィールドワークで三重県に自腹で何回も来てというのをやる若者たちがいるんですが、それが1回目よりも2回目の方がブランド化されまして、1回目は三重と新潟市だけだったんですが、それがおもしろいというので、2回目は予約スタートして3分ぐらいでもう全部いっぱいになってしましまして。嵐のコンサートか丸の内朝大学かというぐらい人気が出るようになりまして、そういう意味では、今町長おっしゃっていただいたように継続して続けることで、また、御浜町の場合は年中ミカンが取れるということですから、季節ごとに春夏秋冬とか仮にやってみて、そ

れで継続してブランド化させるというのも一つのアイデアだと思いますので、我々もそういう知恵を絞って、早めに日程が決まっていれば年間スケジュール表みたいなものに入れておいて、我々が全体を営業する中にもそういうのも入れていければと思いますので、また具体的に相談をさせていただければと思います。

## 御浜町長

これで、一応用意したテーマは終了ですのでこれまでですが、せっかくこの場所を設定させていただいたことの一つに、12号台風でもそうでしたが、来年熊野古道世界遺産登録10周年です。それで、我々もクリーン作戦で町民の協力を得ながら掃除をしたりしているんですが、流木とかゴミがなかなか片付かない。そのときに、そういった会議の席であえて申し上げるんですが、流木を積み上げてどんど焼きみたいに夜空を焦がして燃やしたらいいんじゃないかと。それはできないですよという答えしかないんですが、それを例外的に燃やした場合に、地球環境とか地域に多大な悪影響をもたらすのかどうかというようなことも考えていただいて、そういう費用の面とか、あるいはスピードの面で、あるいは住民の関心からいっても、一気にみんなできれいにしようというときの、一種のお祭りでどンドン燃やすということが、ちゃんと安全に配慮して、それが名物になって那智の火祭りとか新宮の火祭りみたいな「七里御浜の流木燃やし祭り」みたいなそれぐらいのことで費用をかけずに片付くんじゃないかと。

というのは、県のほうに頑張らせていただいて時間かけて片付けたものを積み上げる、それがまた波が来てさらわれていくみたいなことも、あまりにももったいないと思いますし、そういう超法規的なことをやっても許されるのではないかとも思い、耳にちょっと入れておこうと思いました。

## 知事

なるほど。分かりました。では、耳に入れておきます。

### (3) 閉会あいさつ

## 知事

町長、どうもありがとうございました。また、御浜町の皆さんもありがとうございました。また、傍聴の皆さんもどうもありがとうございました。

特に今日は防災の話をお願いいただきまして、県のことさることもながら、国と一緒にやるべきこともありますし、また、最後の柑橘のところについては、具体的なアイデアを出し合っって前に進めればと思っていますので、どう

ぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

今日は、本当にどうもありがとうございました。